

第7章

活用

第7章 活用

1. 活用の方向性

飛鳥宮跡は、日本の古代史にとって重要な遺跡である。この価値を未来に継承し、国内外に情報発信し、さらに飛鳥地域の活性化を進める。

その際、第9章で述べる役割分担の基本的な考え方にに基づき多様な主体により活用を図るとともに、保存・整備の進捗に伴い可能となる活用策も段階的に拡大していくことから、現段階において可能な取組みについては早急な実施を図り、整備の段階に応じて活用を展開させることを基本とする。

(1)飛鳥宮跡の本質的価値を体感し理解を深める場とする

飛鳥宮跡の本質的価値はかつての宮の構造を今に伝える地下遺構であるが、その遺構を良好な状態で保存してきたこの地の歴史的風土を成す農村景観もその本質的価値に密接に関わる主要素である。地下遺構と歴史的風土・景観をともに体感することでその本質的価値の理解を深めることができる。

このような考えのもと、飛鳥宮跡において、本質的価値の解明と保存を行いながらそれを後世に継承する意義をわかりやすく伝え、「飛鳥宮」があった場所にいる」という臨場感の高い体験を提供し、飛鳥の成り立ちをより深く知る場として活用する。

① 歴史的風土の中のかつての宮殿空間を体感する仕掛けづくり

- ・宮廃絶後 1300 年以上にわたり地下にその遺構を保存し、日本の原風景と言われる歴史的風土・景観を形成してきた飛鳥の成り立ちを理解できる空間とする。
- ・往時の飛鳥宮に暮らした天皇家の人々、宮を訪れた豪族や留学生らがそこで何をしていたのかを想像できるような歴史体験を提供する。
- ・体験学習拠点として必要なサービス・管理機能を配置する。

② 整備状況や新たな知見に対応した活用の取組み

- ・史跡指定地の公有化や整備状況の進捗に応じて活用を展開する。
- ・知見の蓄積に合わせて展示等の情報発信内容を更新・進化させていく。

(2)飛鳥地域全体の活性化に活かす

明日香村が提唱する「明日香まるごと博物館づくり」の構想を踏まえ、地域全体の活性化の拠点として活用する。

① 地域住民や来訪者が快適に過ごせる空間づくり

- ・地域住民が日常生活や来訪者との交流を通して、親しみや誇りをもてる空間とする。
- ・様々な主体が飛鳥宮跡の活用に参画できる体制を整える。
- ・周辺と一体となった歴史を感じるまちづくりを推進する。

② 周辺の歴史文化資産等とのネットワークづくり

- ・「明日香まるごと博物館づくり」の拠点として必要なサービス・管理機能を配置する。
- ・周辺の歴史文化資産等と連携して周遊・情報ネットワークを構築する。

(3)重要な観光資源として地域の魅力向上に貢献する

① 多様な来訪者に対応したサービスの提供

- ・高齢者や子供、障がい者、学生、外国人等、様々な来訪者が安心して快適に過ごすことができる空間とする。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として導入すべきと考えられる「新しい生活様式」を念頭に置いた活用を図る。

② 時代の流れを旅の中で感じながら飛鳥宮跡を訪れる仕掛けづくり

- ・様々な媒体を使って、人々が飛鳥時代へ思いを馳せるようなきっかけをつくる誘致活動を仕掛ける。飛鳥地域を訪問する際に、日常空間から現代都市空間を経て飛鳥に到達し、飛鳥の原風景である農村風景の中を歩いてかつての宮殿空間へ到達する行程そのものを歴史体験のひとつと捉える。
- ・積極的、継続的に保存・活用・整備に関する最新情報を発信する。

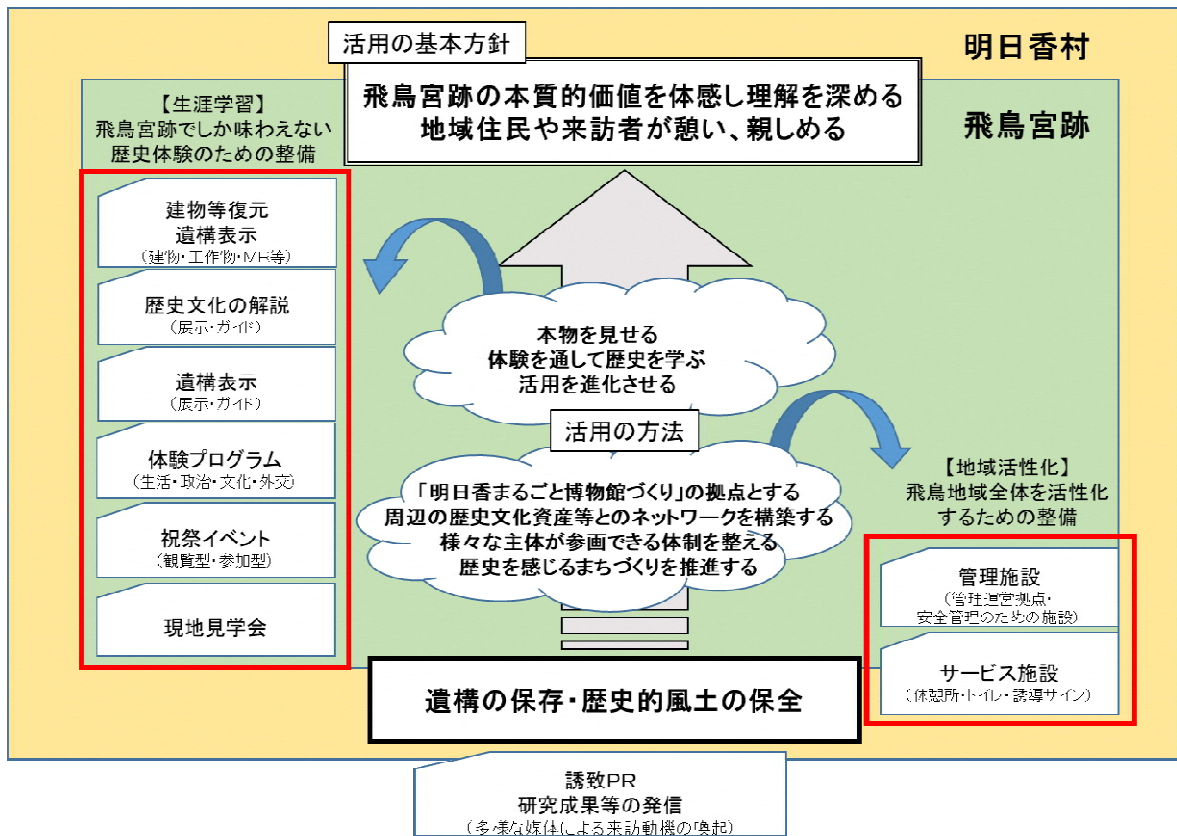


図7-1 保存・活用・整備の関連性

2. 方法

飛鳥宮跡の本質的価値とその保存の意義を分かりやすく伝え、日本の歴史に親しみ、飛鳥の成り立ちをより深く知る場とするため、建造物等の遺構表示・復元・実物展示やCG技術の活用等を行うとともに、知識に乏しい来訪者にも容易に理解が可能なストーリー性を持つ展示を行い、飛鳥時代の宮廷生活を表現する。併せて歴史的風土の主要素である農村景観を保全し、飛鳥の原風景の魅力を発信する。また、継続的に行われる調査研究の最新成果を反映した展示を行うなど、様々な活用方法を計画する。

(1) 飛鳥の本質的価値を体感し理解を深める場とする

① 歴史的風土の中のかつての宮殿空間を体感する仕掛けづくり

ア 本物を見せる

・地域住民や来訪者が本物の遺構や出土品を直接見る機会を設ける。来訪者により分かりやすく伝えるために、発掘時の画像やイラスト等を活用して解説する仕組みを構築する。研究者や学生が参画する学術的研究活動を活発化させ、研究機能の強化と向上を図る。



写真 7-1 現地見学会



写真 7-2 発掘結果のパネル表示
(飛鳥京跡苑池休憩舎)

イ 体験を通して歴史を学ぶ場とする

・宮の廃絶後も 1300 年以上経過した中で、農地として利用されてきたことで飛鳥時代の遺構が保存されてきたということを伝えるため、また周囲の景観との調和を図るため、内郭の石敷を表現するエリアと水田景観を見せるエリアを効果的に組み合わせる。

・甘檜丘や香久山、耳成山等に囲まれ、奈良盆地を望むことができる場所であることが、飛鳥宮がこの場に立地することになった地理的な要素と思われることから、これらを望む視点場において解説を行う。

・飛鳥の農村景観の四季の美しさを発信し、古代国家の中核が今は農村の中にあるという重層的な構造を現地で体感し、その本質的価値を理解してもらう。

ウ 飛鳥時代の宮廷生活を再現する様々なコンテンツを提供する

・考古学や歴史学をはじめとする様々な分野の最新の研究成果を踏まえ、往時の儀式や祭祀、古代衣装、古代食などを再現するほか、伎楽、歌垣、蹴鞠などの行催事等も再現するなど、お祭りに仕立てることで歴史の知識がそれほどない来訪者にも、感覚的に飛鳥宮跡の往時の姿を想像できる取り組みを行う。

・祝祭等をイメージし、明日香村で活動している劇団時空や明日香村伝承芸能保存会等による伝統行事を対象地で演じていただく。

例) (一社) 飛鳥観光協会による古代衣装の貸し出し

例) 明日香村で活動している劇団時空や明日香村伝承芸能保存会等による伝統行事

第7章 活用



写真7-3 2017年まで行われていた持統天皇行幸ウォーク

- ・「飛鳥」あるいは「ASUKA」をテーマとする音楽や演劇等による祝祭を開催し、にぎわいを演出する。
 - ・日本史の深い知識を持ち合わせない海外からの来訪者や子ども・若者などに向けては、娯楽性、ゲーム性の高い楽しめるコンテンツを用意する。
- 例) 小説やコミックス、映画やドラマ、ゲーム等とのタイアップ、
VR（仮想現実）、AR（拡張現実）などの映像技術による歴史解説など



写真7-4 飛鳥浄御原宮正殿のCG画像
明日香村「バーチャル飛鳥京」アプリ



写真7-5 歴史ナビアプリ
(福岡市)



写真7-6 ARアプリ
(滝山城跡)



写真7-7 VR画像を使った案内
明日香村「バーチャル飛鳥京」アプリ

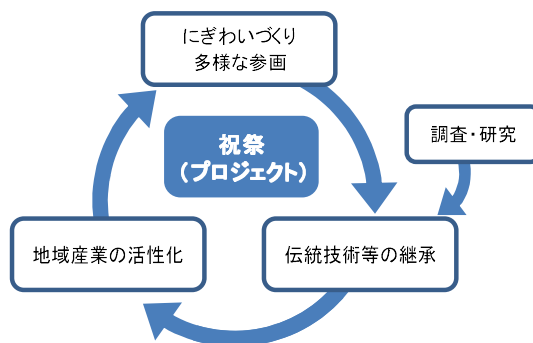
- ・住民が楽しめるのは勿論、来訪者でも気軽に参加できるプログラムを組込むことで、祝祭や行催事に多くの主体が参画し、多様な交流が深められるよう工夫する。

例) (仮)「あすかのみや」再生プロジェクト案

<取組のイメージ>

(仮)「あすかのみや」再生プロジェクト案

- 飛鳥宮跡におけるシンボリックな取組として、住民や来訪者によるボランティアを主体としたプロジェクトチームによって、飛鳥の宮を造営する過程をお祭りに仕立てて再現する。それにより、往時の生活や技術をより深く体感・体験できるきっかけとする
- 建物の設計をはじめ、使用する素材、デザインやディテール、加工技術などの分野ごとに公募制やコンペ方式を導入することにより、さまざまなノウハウやアイデアを集めるとともに、研究者や学生、個人、民間事業者など多くの主体が参画できるよう工夫し、多様な参加者の協働作業とすることで、宮跡の活用、地域の活性化を目指す。
- このプロジェクトにより、主催者と参加者の交流を深めるとともに、伝統技術の継承、経済の活性化等に資する。
- プロジェクトの展開
 - ◇ 地域の農林・土木などの「産」や考古学・建築学などの「学」の支援のもとに、多様な関係者による協働作業として運営する。
 - ◇ 定期的・継続的にボランティアを募り、参加者を増やすことで体験を通じて得た知識や技術を継承する。
 - ◇ ふるさと納税やクラウドファンディング等を利用し、より多くの人に参画する意識をもってもらう。
 - ◇ 公募やコンペ方式で生まれた作品(建物等)を、遺構表示の一部として活用する。



エ 地下遺構の明示

- ・かつてここに宮殿空間があったという感覚を想起させる取組みとして、宮殿の範囲、建物や塀・溝などの位置や大きさの表現、往時の建物等の遺構表示・復元・実物展示を検討する。